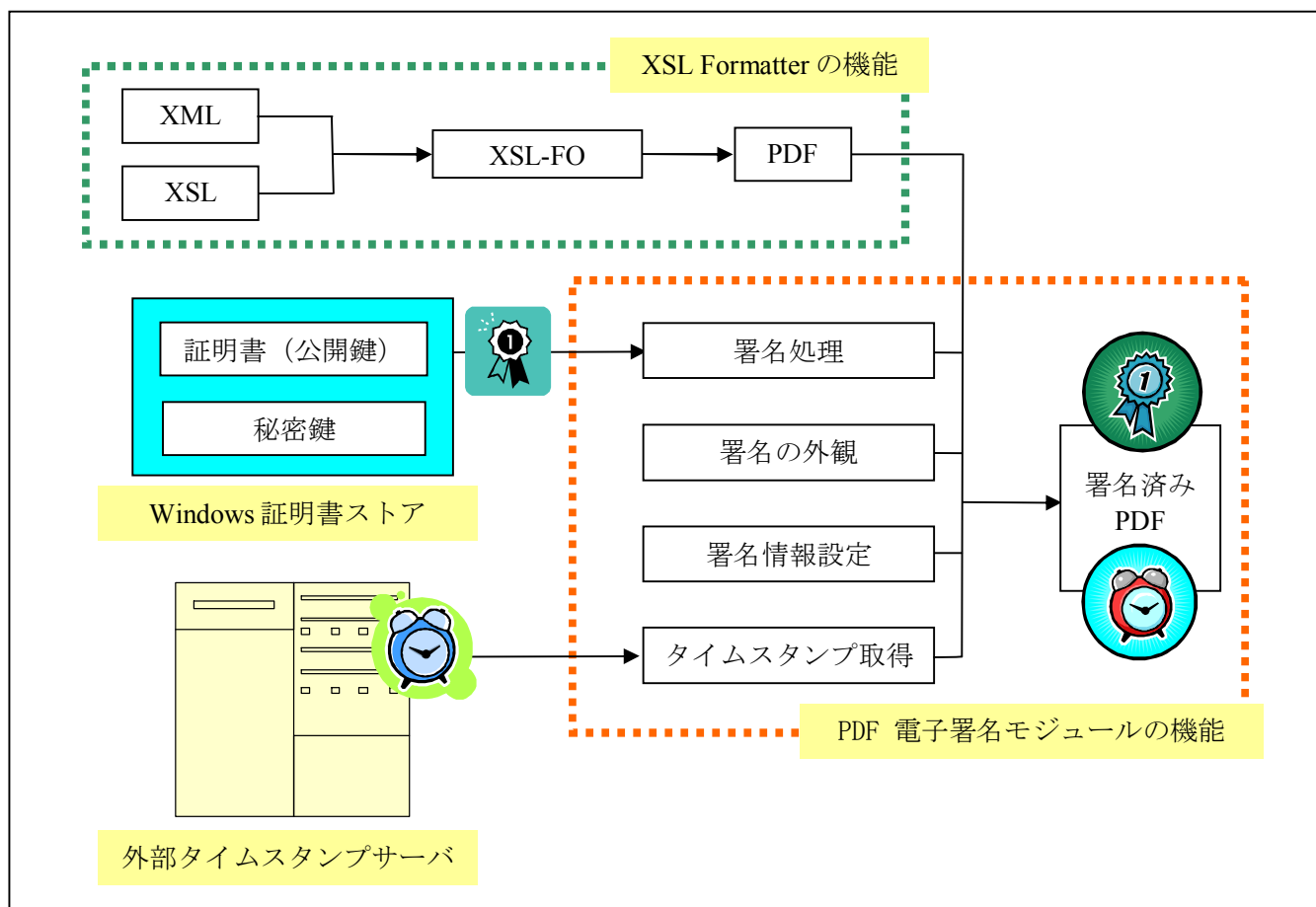


XSL Formatter V4.2 連携 「PDF 電子署名モジュール」

参考出品

- PDF に電子署名を付けることで、改竄防止と真証性を確保できます。
 - 電子署名の検証結果が不正であれば改竄があったことを容易に検出できます。
 - 電子署名の検証結果が正常であれば真証性が確保されたこととなります。
- 更にタイムスタンプを付けると「いつ」署名されたかを保証できます。

構成図



PDF 電子署名モジュールの機能

- XSL Formatter が生成した PDF に対して電子署名を付加できます。電子署名は可視署名と不可視署名の付与ができます。
- タイムスタンプサーバと連携して、PDF にタイムスタンプを付与できます。
- 電子署名に使う証明書と印影の設定ができます。
- PDF 署名フィールドの情報設定ができます。

(設定画面 [デモ版])



XSL Formatter と連携

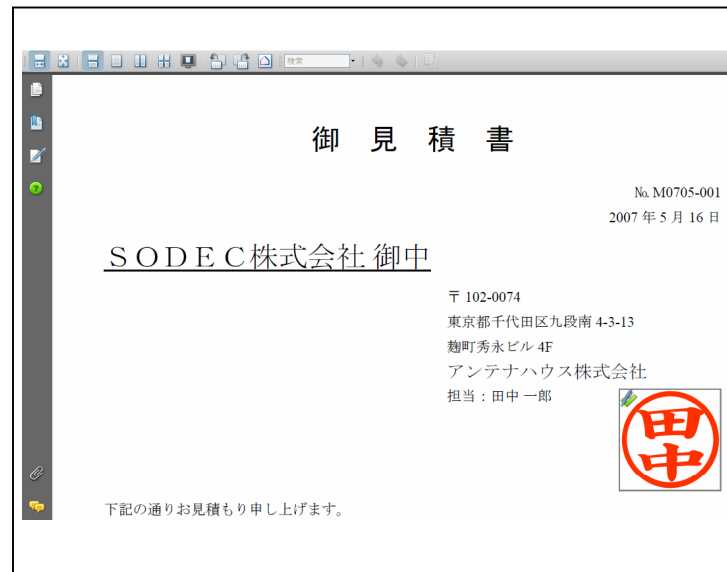
署名位置をダイナミックに変更

文書の中で署名を付加する位置を XSL-FO に指定できます。これにより、署名の情報や印影を付加する位置を、コンテンツの組版結果に依存してダイナミックに変更させることができます。

電子署名フィールドを、XSL-FO の独自拡張要素 `axf:form-field` の属性 `field-type="signature"` で指定します。

【例】幅 3cm、高さ 3cm の署名の印影領域を確保

```
<axf:form-field
  field-type="signature"
  width="3cm"
  height="3cm"
/>
```



XSL Formatter で FO を組版した結果、`axf:form-field` オブジェクトが配置される位置に署名用の領域が確保されます。

XSL Formatter の組版結果による署名位置等の情報が PDF 電子署名モジュールに渡されて、PDF に署名が付加されます。

XSL Formatter の PDF 出力設定を継承

- リニアライズと電子署名の調整 — リニアライズと電子署名は、両方とも PDF 生成の最後に行うべき処理のため、署名とリニアライズを同時に指定すると、両方のツールで連携しない限り、どちらかが無効になってしまいます。本製品では、XSL Formatter でリニアライズを遅延処理することで両方を両立できます。
- パスワードセキュリティ設定 — Formatter で PDF にパスワードによるセキュリティを設定したとき、それを継承できます。

動作環境

- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server2003
- Windows Vista

※本資料は発売前の説明用です。発売時には仕様に変更・追加になる予定ですので、ご注意ください。